

## 2025年度 医療事故報告一覧

番 号	1	2	3	4
発生月	4月初旬	5月下旬	7月下旬	8月中旬
発生場所	外来	病棟	病棟	病棟
患者性別等	女	女	女	男
年齢	80代	70代	70代	90代
概 要	転倒による左大腿骨頸部骨折	抗血栓薬無投薬による入院期間延長	転倒による右大腿骨転子部骨折	転倒による右大腿頸部骨折
内 容	外来受診による来院の際、付き添いの家人が駐車している間に、患者単独で杖歩行し、総合受付の前で足が滑り転倒した。整形外科を受診し、左大腿骨頸部骨折の診断により、緊急入院となった。	脳梗塞にて紹介入院。患者は前医で処方されたバイアスピリンを所持していなかったため、電子カルテ掲示板にその旨を記載した。それ以降5日間、バイアスピリンを持参したかの確認を失念し、無投薬となった。入院後、梗塞巣の拡大が見られ、構音障害を認めたため、リハビリテーション目的に入院期間が延長となった。	患者が病室の壁にもたれかかり尻餅をついているのを発見。患者は家族と面会中であった。整形外科を受診し、右大腿骨転子部骨折と診断された。	センサーコールで看護師が訪室すると、トイレ前で長座位になっているところを発見した。センサーコールは起き上がりで設定していたが間に合わなかった。整形外科を受診し、右大腿頸部骨折と診断された。
対 応	入院4日目に左大腿骨人工骨頭挿入術を施行された。	発見した入院5日目にバイアスピリンを3錠内服、翌日より1錠/日で開始となった。	7月31日、観血的整復固定術(大腿)を施行された。	8月18日、観血的整復固定術(大腿)を施行された。
対 策	来院時は家人の付き添いを依頼する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持参されていない薬剤の継続が必要な場合は、持参されるのを待たずに主治医に処方依頼する。</li> <li>・持参薬を持って来ていなくても、持参薬報告書を作成し、紙媒体で見える化することで失念を防止する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者が離床する際、ふらつき等ある場合は、ご家族との面会中であってもナースコールで知らせてもらうよう、ご家族にも説明する。</li> </ul>	認知症があり、ベッド上安静が保てず、日中必要時はご家族へ見守りの協力を得る。
レベル	3b	3b	3b	3b

## 2025年度 医療事故報告一覧

番号	5	6	7	8
発生年月日	9月下旬	10月中旬	12月中旬	1月中旬
発生場所	病棟	救急外来	病棟	病棟
患者性別等	女	男	女	女
年齢	80代	70代	60代	80代
概要	入院中に左大腿骨頸部骨折が判明	脳空気塞栓の状態内で内視鏡止血術を実施	てんかん薬の過量投与	転倒による左大腿骨頸部骨折
内容	肺炎にて入院。入院前に数回の転倒歴があった。入院3日目、リハビリが開始となった頃から、腰痛や股関節痛の訴えが多くなったため、整形外科を受診。左大腿骨頸部骨折が判明した。	10月13日、草引き中で立ち上がれず、救急外来に搬送。点滴と頭部CT撮影を実施し、頭蓋内に病変はなく症状が軽快したため、帰宅の方針としたが、突然吐血した。胸腹部と頭部のCT撮影を実施し、脳空気塞栓が認められた。持続する吐血に対して、緊急上部消化管内視鏡検査を開始した。血塊を除去しながら出血点を探したが、血圧が低下したため、検査を中止した。	胃瘻造設目的にて入院。既往のてんかんにに対し持参薬「フェノバル散10%600mg」を当院で「フェノバルビタール散10%600mg」として入力したため、本来の10倍量が処方された。患者はフェノバルビタールの血中濃度の上昇により傾眠傾向を呈した。	朝方、センサーが作動し、訪室するとベッド脇に座り込んでいた。頭部を打ったと訴えがあり、当直医に報告し頭部CT撮影をしたが、頭部外傷や出血はなかった。その後、左大腿部の疼痛を訴えられたため、XP撮影し、左大腿骨頸部骨折が判明した。
対応	9月30日、左大腿骨人工骨頭挿入術が施行された。	大阪医科薬科大学病院へ転送。同大学病院で止血が行われたが、意識がもどらず、原因不明の空気塞栓に伴う脳梗塞によるものと診断され、10月24日に本院HCUへ転送となった。	フェノバルビタール中毒に対し、利尿剤投与を開始。入院が延長となった。	左大腿骨人工骨頭挿入術が施行された。
対策	入院前に転倒歴があり、疼痛の訴えがある場合は、速やかに整形外科受診を依頼する。	脳梗塞等を疑った場合はMRI検査も検討する。気管挿管は適切な時機に施行できるよう、定期的に実技研修を行う。緊急的処置の場合は上級医に連絡し、アドバイスを受ける。多職種の医療従事者が関わる事案では、十分な情報共有・意思疎通を図る。	アラート解除の際はいったん手を止め警告内容を確認することを安全小委員会、安全通信等で伝達。 ・てんかん薬処方時、常用量をオーバーするとオーダーできないシステムに変更。	患者の日常生活動作に沿った環境整備を工夫する。
レベル	3b	4b	3b	3b

## 2025年度 医療事故報告一覧

番 号	9
発生年月日	2月初旬
発生場所	病棟
患者性別等	女
年齢	90代
概 要	転倒による左坐骨骨折
内 容	ベッドセンサーコールにて訪室すると床に座り込んでいた。翌日、左臀部痛が増強したためXP撮影をするが明らかな骨折は確認できなかった。しかし疼痛が持続するため、CT撮影をしたところ左坐骨骨折が判明した。
対 応	保存的治療となった。
対 策	患者の日常生活動作に沿った環境整備を工夫する。
レベル	3b